

# Publisher's Review

パブリッシャーズ・レビュー

● 東京大学出版会・白水社・みすず書房のPR紙 ●



## みすず書房の本棚

[無料送付]

No. 29 2018 冬

(表示価格は税別です)

113-0033 東京都文京区本郷 2-20-7 tel. 03-3814-0131 www.msz.co.jp

### 「繊細と直截」

英国人外科医 スティーヴン・ウエスタビーの肖像

勝間田敬弘



2010年スイス・ジュネーヴにて ウエスタビーと筆者

一九九六年二月、私は厳冬の英国ヒースロー空港に着陸した。コーチ(英国式でいう長距離バス)にスーツケース二個を持ち込み、車中で爆睡すること九〇分、オックスフォード郊外の小さな町ヘディントンに降り立った。日没前の夕刻であったが、バス停の周囲はうっすらと積雪し、時折雪片が顔に降りる。話に聞いた、寒く薄暗い英国の晩冬が、そこにあった。

今でもあるピックウィックという名のB&Bにチェックインし、部屋の水道水で沸かした紅茶の表面にできる硬水特有の被膜をすすりながら荷解きに取りかかった瞬間、部屋の設置電話が鳴った。オックスフォードアクセントの聞き取りもままならない私に、B&Bのオーナーの夫がなにやら「あなたに電話よーらしきことを口走り、そのまま通話を外線に切り替えた。その刹那、受話器から「Ha Haal! It's Steve.

Steve Westaby. How goes your struggle?」の大きな音響。これが、スティーヴとの出会いであった。その日から、足かけ五年に及ぶスティーヴの下での修業生活が始まった。

本書は、英国人臓血管外科医、スティーヴン・ウエスタビーの自叙伝である。彼の人間性は、本書を通じて容易に理解されるだろう。

挑戦心と思い切りのよさ、自分の立場や将来などを一切顧みず、黙々と、眼前に救いの手を求め現れる患者の診療に最善と全力を尽くす若き外科医。予期せぬ展開に悲しみ、落胆し、反省し、決して後退することなく、よりよき外科医を目指して邁進するエネルギーとタフネスには、医師のみならずプロフェッショナルを目指すすべての職業人に向けた指標が透視できる。

彼と働いた経験から、あえて集約

事実となり未来の最大多数の救済に貢献するという信念が満ちている。スティーヴは「自分は、Trauma surgeon (救急外傷専門外科医) だった」と私にたびたび語った。ちなみに、彼の現在の妻サラはナイチンゲールが活躍したロンドンのセントトーマス病院の外傷外来の看護師長であった。外傷の専門家に共通するのは、最短の時間で診断し、最短の時間で判断し、最短の時間で行動し、最短の時間で手術する、速度と合理性である。これらいずれの要素が欠落しても、外傷患者の生命は失われる。この「最短時間の行動力」が、彼の臓器外科の手術場には充満していた。もちろん外傷手術に長けていたことは言うまでもない。腹部外傷に対応する経験と技量も有していた。「フットワークなき外科医は、患者を死に追い遣る」。これがスティーヴの行動信条であった。

「臓手術には例外なくリスクがある。執刀する私たち医者は、振り返らない。私たちは次へと進む。いつだって、結果がよりよいものになると期待する。そして、決してそれを疑ってはならない」

私たちの心臓は一年間で三二〇〇万回、八〇年生きたとすれば、二五億回の拍動をつづける。毎日全身には、六〇〇リットル以上の血液を送り出される。この途方もない偉業を、私たちはどうして機械にやらせたり、他人の心臓で代用できると考えたのだろうか?

ウエスタビーは、その生命の鼓動を刻む臓器の手術に挑みつづける。心臓が右側にある男の子、五度も同じ心臓疾患に冒された女性、人工心

臓によつて七年もの「追加された人生」を生きた医師。ひとつとして同じ心臓などなく、どの患者にも手術台の上で胸を切り開かれるまでの人生があった。ウエスタビーがあらゆることは、いつでも目の前の患者の人生の終わりを意味した。心臓が動かなくなるより不幸なことは、人生には訪れない。もしそれ

までの人生がどれほど苦しみ満ちていたとしても、そしてもしそれからの人生が、他人の心臓や機械の心臓とともに生きる、戦いの日々だったとしても。

▽著者紹介 世界的に有名な心臓外科医にして、植え込み型人工心臓手術のバイオニア。三五年のキャリアの間、外科医としていくつも英国最高峰の病院で働き、一万二〇〇〇回以上の心臓手術を行った。二〇〇四年、「The Ray C. Fish Award for Scientific Achievement」受賞。同年、BBCのドキュメンタリー番組「Your Life in Their Hands」で取り上げられ、話題になった。【医療読み物・ノンフィクション】(四六判・336頁・三〇〇〇円)

冒頭で記した渡英初日の夕に掛かった電話の三〇分後に、私が泊まるB&Bの前に十二気筒のジャガーが停まった。中から、見覚えのある幅のいい紳士が大股で降りてきた。スティーヴだった。「今晚、俺の家に飯を食いに来い。いまから連れていくから支度しろ」。これまた直截であった。

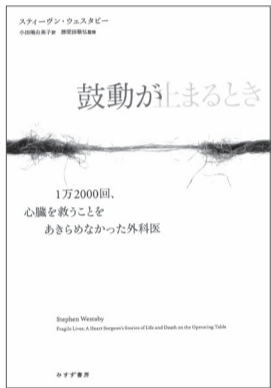
妻のサラと息子のマーク、そしてスティーヴの三人とキッチンで食卓を囲み、その日の早朝にスティーヴ自身が散弾銃で仕留めた鳩が供された。緊張の食卓のち、客間で珈琲の時間となった。突然スティーヴは私に「Katsu, Don't mention the War! Ha Haal!」と笑顔で話しかけた。私の脳裏は「ああ、第二次大戦では敵国であったよな。だが、今日からは上司と部下。戦争のことは、もはや口にするまい!」との融和策かいな?と顔面どおりに受け取って、苦笑いしてごまかした。

それ以後、帰国までの四年間、ほぼ毎日といつていいほどスティーヴの「Katsu, Don't mention the War!」は続くこととなる。私も、上司との単なるブラクジョークの合言葉として「Oh! Steve, Don't mention the War!」と返すようになっていた。渡英数カ月後のある日、秘書アンジェラから、気づかぬ事実を聞かされた。全英で爆発的な人気コメディ番組で、ドイツ人の来客にぜひ滞在してもらいたい英国人亭主が、スタップに「頼むから戦争の話題は出すな!」と言いつつ含める定番場面の定番ギャグなのであった。これ以後、ぜひいて欲しい御仁に対して、ジョークの好きな英国人は英国人に対して「Don't」を発するそうなの。これを聞いて、はたと気づき、私からも「Never mention the War!」と遠慮なく返すようになった。

### カリスマ外科医の自伝的エッセイ

スティーヴン・ウエスタビー

《鼓動が止まるとき 1万2000回、心臓を救うことをあきらめなかった外科医》  
小田嶋由美子訳 勝間田敬弘監修



鼓動が止まるとき

1万2000回、心臓を救うことをあきらめなかった外科医

Stephen Westaby  
Fights Loss, A Heart Surgeon's Story of Life and Death on the Operating Table

2018年

鼓動が止まるとき

1万2000回、心臓を救うことをあきらめなかった外科医

Stephen Westaby  
Fights Loss, A Heart Surgeon's Story of Life and Death on the Operating Table

2018年

冒頭で記した渡英初日の夕に掛かった電話の三〇分後に、私が泊まるB&Bの前に十二気筒のジャガーが停まった。中から、見覚えのある幅のいい紳士が大股で降りてきた。スティーヴだった。「今晚、俺の家に飯を食いに来い。いまから連れていくから支度しろ」。これまた直截であった。

妻のサラと息子のマーク、そしてスティーヴの三人とキッチンで食卓を囲み、その日の早朝にスティーヴ自身が散弾銃で仕留めた鳩が供された。緊張の食卓のち、客間で珈琲の時間となった。突然スティーヴは私に「Katsu, Don't mention the War! Ha Haal!」と笑顔で話しかけた。私の脳裏は「ああ、第二次大戦では敵国であったよな。だが、今日からは上司と部下。戦争のことは、もはや口にするまい!」との融和策かいな?と顔面どおりに受け取って、苦笑いしてごまかした。

それ以後、帰国までの四年間、ほぼ毎日といつていいほどスティーヴの「Katsu, Don't mention the War!」は続くこととなる。私も、上司との単なるブラクジョークの合言葉として「Oh! Steve, Don't mention the War!」と返すようになっていた。渡英数カ月後のある日、秘書アンジェラから、気づかぬ事実を聞かされた。全英で爆発的な人気コメディ番組で、ドイツ人の来客にぜひ滞在してもらいたい英国人亭主が、スタップに「頼むから戦争の話題は出すな!」と言いつつ含める定番場面の定番ギャグなのであった。これ以後、ぜひいて欲しい御仁に対して、ジョークの好きな英国人は英国人に対して「Don't」を発するそうなの。これを聞いて、はたと気づき、私からも「Never mention the War!」と遠慮なく返すようになった。

そしてそれは、今日までスティーヴと私の合言葉となった。(か)つまた・たかひろ 大阪医科大学胸部外科学教室 教授

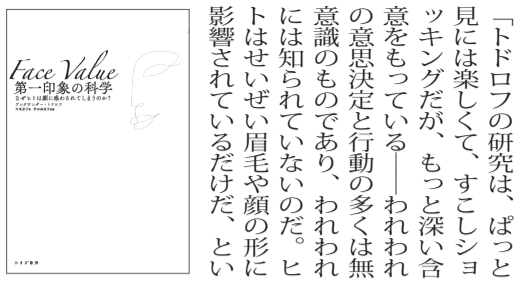
\*上にご紹介する『鼓動が止まるとき』の巻末に付された「監修者解説」より抜粋・再構成しました

英米でベストセラーになり、中、仏、伊、独、葡、羅などの各国語にも翻訳されている話題作の待望の邦訳。進化は「まったく違う経路で心を少なくとも二度、つくった」。一つはヒトや鳥類を含む脊索動物、もう一つがタコやイカを含む頭足類だ。哲学者であり練達のダイバーでもある著者によれば、「頭足類と出会うことはおそらく私たちにあって、地球外の知的生命体に出会うのに最も近い体験」。人間とはまったく異なる心／内面／知性と呼ぶべきものを、彼らはもっている。本書は頭足類の心と私たちの心の本性を合わせ鏡で覗き込む本である。

海で生まれた単細胞生物から、現生の頭足類への進化を一步ずつたどれば、そこには神経系の発達や、感覚と行動のループの起源、「主観的経験」の起源があり、それは主観的に感じる能力や意識の出

「人は見た目が9割」の真実
A・トドロク
中里京子訳
なぜヒトは顔に惑わされてしまうのか?
作田由衣子監修

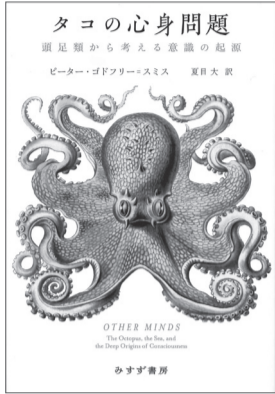
「すばらしい本だ。多数の驚くべき洞察と魅力的な図版がある種、複雑で審美的な体験を与えてくれる」ダニエル・カーネマン(プリンストン大学名誉教授)
「トドロクの研究は、ぼつと見には楽しく、すこしショックだが、もっと深い含意をもっている——われわれの意思決定と行動の多くは無意識のものであり、われわれには知られていないのだ。ヒトはせいぜい眉毛や顔の形に影響されているだけだ、とい



### タコになったらどんな気分か?

ピーター・ゴドフリー=スミス

《タコの心身問題 頭足類から考える意識の起源》 夏目大訳



現につながっている。「タコになったらどんな気分か」という問題の中には、心とは何か、それは物理的な身体とどう関係するのかを解き明かす手がかりが詰まっている。知能の高さゆえの茶目っ気たっぷりの行動や、急速な老化と死の謎など、知れば知るほど頭足類の生息はフアンタスティック。おまけに著者が観察している「オクトポリス」(タコが集住する場所)では、タコたちが社会性の片鱗を示しはじめているという。味わい深く、驚きに満ちた一冊。
「生物哲学・生物学」(四六判・320頁・三〇〇〇円)

### シベリアはソ連の「ゴミ捨て場」だった

「事件」を一九三〇年代の政治的・社会的文脈のなかに位置づけた。スターリン体制のもとでナジノ島のような「特別村」は何を意味したか。十万人という市民を運ぶ大規模な移送計画の実態は? この「壮大な計画」は中央各地域現場でどう機能したか。その全体像が本書ではじめて明らかにされた。著者は問う「これははたして過去の特異な物語だろうか?」「ソ連・スターリン体制」(二月刊)
(四六判224頁・予三三〇〇円)

### シベリアはソ連の「ゴミ捨て場」だった

ニコラウエルト 《共食いの島》 根岸隆夫訳

「事件」を一九三〇年代の政治的・社会的文脈のなかに位置づけた。スターリン体制のもとでナジノ島のような「特別村」は何を意味したか。十万人という市民を運ぶ大規模な移送計画の実態は? この「壮大な計画」は中央各地域現場でどう機能したか。その全体像が本書ではじめて明らかにされた。著者は問う「これははたして過去の特異な物語だろうか?」「ソ連・スターリン体制」(二月刊)
(四六判224頁・予三三〇〇円)

一九三三年早春、ソ連の秘密警察はモスクワやレニングラードなど大都市を「浄化」するために、約十万人の富農や「社会的有害分子」を一斉逮捕、シベリアに移送した。多くが強制収容所に送られたが、約一万人はオビ川の荒涼としたナジノ島に、食糧も家もなく遺棄された。フランスのソ連史の専門家ヴェルトは発掘した新資料をもとに、彼らを待ち受けた過酷な運命と最後の日々をドキュメントする。さらに、この

メルロ・ポンティが一九六一年に急逝する直前まで書かれていたコレージュ・ド・フランス講義のための草稿は、遺稿として発見された当時の講義草稿を復元・編集し、一書となすもので、「見えるものと見えないもの」「研究ノート」とともに、哲学者の晩年の思索を理解する大きな一冊。『哲学』(二月下旬刊)
(A5判552頁・予七八〇〇円)

### 難民を救え

丸山直起 《ホロコーストとアメリカ》 ユダヤ人組織の支援活動と政府の難民政策

「ホロコースト・現代史」(四六判・448頁・四六〇〇円)

ヒトラー政権が進める反ユダヤ政策を逃れて自由の国に入国しようとするユダヤ人移民に、アメリカはどのように対応したか。彼らを救うはずのアメリカの運命にいかに向き合ったのか。その真実の諸相を、難民救済のユダヤ系団体アメリカ・ユダヤ人合同配分委員会(特にその女性スタッフとして世界各地を遍歴したローラ・マーゴリスの活動を軸に初めて明かす実証研究)物語。なぜ国際社会は絶望的状况に陥ったユダヤ人たちに積極的な支援の手を差し伸べようとせず、またアウシュヴィツ

急速にキャッシュレス化が進む中国で最大シェアをもつ決済サービス「アリペイ」(支付宝)を運営するアントフィナンシャルは、ジャック・マー率いるアリババグループの金融関連会社である。アリペイの使用シーンの豊富さや信用スコアリングは日本でも大きな注目を浴びているが、その主眼であるインクルーシブファイナンスについてはまだ充分な関心が払われていない。アントフィナンシャルが最も重視するのは零細企業や農村、一般消費者へのサービスだ。信用情報がなく銀行からの融資を受けられない零細企業や一般消費者には、有効な信用情報を蓄積する術を生み出し、適正に与信判断をするシステムを構築することで融

### みすず書房新刊 (2018.8.11)

東京文京本郷2-1-3 電話三六四〇三三 (価格は税別です)

羞恥 チョン・スチャン オリンピックに沸く町で押し潰される脱北者。韓国社会を生きる哀しみかたき小説。斎藤真子訳 三〇〇〇円

予測不可能性 あるいは計算の魔 あるいは、時の形をめぐる瞑想 エランド 予測可能な宇宙から計算不可能な宇宙へ、計算から幾何へ、時を追い求めた数学を語る珠玉作。南條郁子訳 二八〇〇円

世界不平等レポート2018 ビン・ヘン 21世紀の資本を生んだタデータヘイスを基に、最新動向を全世界の研究者ネットワークが分析。徳永他訳 七五〇〇円

映画『夜と霧』とホロコースト 世界各國の受容物語 坂口恭平 異才マルチャーチストが、崩壊する世界をさまよう心身の記録に挑む。歌のような絵のような書き下ろし長編。三三〇〇円

心理療法の実践 ユング 他者の心に近いとき、近づいた者の心には何が起るのか。「医学と心理療法」他九編 横山監訳 大塚訳 三三〇〇円

ヒトラーのモデルはアメリカだった 法システムによる純血の追求 ウィットマン 米の法制度がナチのニュルンベルク法を生んだ「純血の追求」という共通する動機を分析する。西川美樹訳 三三〇〇円

Haruki Murakami を読んで ときに我々が読んでいた者たち 辛島アユツグ 世界のフレイクスルーまでの道程を関係者のインタビューを元にたどる異色の文芸ドキュメント。三三〇〇円

生存する意識 植物状態の患者とオウエン 植物状態の患者の二割近くは意識がある! 意識とは何か、生とは何かを問う神経科学の挑戦。柴田裕之訳 二八〇〇円

法に触れた少年の未来のために 内田博文 厳罰化が進む中、非行少年がやり直すために、福祉・医療・教育が連携する「場」人間の尊厳」に基づく刑法学。四四〇〇円

ブルジョワ 歴史と文学のあいだ モレタイ「世界文学」の旗手が描くエンターテインメントとしての歴史記述。人文学が創造的破壊の試み。田中裕介訳 四八〇〇円

中国はここにある 貧しき人々の魂 荒廃する農村の苦悩を描き大きな感情のうねりを呼んだ。人民文学賞受賞の傑作ノンフィクション文学。鈴木他訳 三六〇〇円

現代日本法へのカタバシス 新版 木庭賢 民法法こそ法のコア。個人の自由をゆるがせ基礎としてローマ法の碩学が現代日本の経済社会を根柢から問う。七八〇〇円

メトロポリタン歌劇場 歴史と政治がつくるランドオウ アフロン その時代その時代の社会、政治人々の意識と呼吸しながら、ニューヨークに刻む130年のドラマ。佐藤宏子訳 八四〇〇円

農家が消える 自然資源経済論からの提言 寺西 五田 山下編著 日本国土となりわいが危ない。トランプ時代に抗する地域・食農業政策とアジア環境共同構想。三五〇〇円

建設現場 坂口恭平 異才マルチャーチストが、崩壊する世界をさまよう心身の記録に挑む。歌のような絵のような書き下ろし長編。三三〇〇円

中井久夫集 8 2002-2004 統一失調症とトラウマ 「全11巻」今にして戦争と平和「踏み越え」について「身体の多重性」生活空間と精神健康「甲南裏山物語」など28編所収。三三〇〇円

憲法論 シュミット 近代市民的法治国憲法の発展を思想的・社会的に考察しつづ、その基本構造を鋭く分析。阿部・村上訳 六八〇〇円

実践感覚「全2巻」ブルテュ 構造主義と現象学を超えて、慣習的行動の実践を解く壮大な理論。社会学の根本課題に挑む。今村仁他訳 各三三〇〇円

人種主義の歴史 フレドリクソン グローバル化は「人種」の境界を無化するのか。差異を合理化してきた差別と排除の世界史。李孝徳訳 三三〇〇円

ピアノ・ノート ロイセン 世界的ピアノリスト西洋音楽史と文学に詳しい理論家、経験と知恵を結集した痛快なエッセイ。朝倉和子訳 三五〇〇円

イギリス女性運動史 「新装版」ストレイチー 平等社会を目指し参政権獲得に至る一三〇年の軌跡を、人物群像とともに活写した古典。栗栖・出淵監訳 九五〇〇円

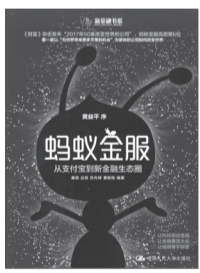
翻訳学入門 「新装版」マンデイ 翻訳理論を明快に解説。世界中の翻訳コースで使用されているベストセラー教科書。新装3刷。鳥飼政孝監訳 五四〇〇円

### 世界 No.1 フィンテック企業をひもとく

廉薇・辺慧・蘇向輝・曹鵬程

《アントフィナンシャル 1匹のアリがつくる新たな金融エコシステム》

永井麻生子訳



資を実現した。貸付リスクの高さから銀行に見放されてきた農村部でも、実情に即して金融ニーズを腑分けし、インフラを整備して、都市部と同等のサービスを提供しようとしている。この企業の本質は、取引における「信用」の問題を技術で解決することにある。アントフィナンシャルの全貌を解き明かすはじめての本。フィンテックの最新線を知り、中国の現在を知るための必読書。「フィンテック・金融」(二月下旬刊)
(四六判400頁・予三〇〇〇円)

「効果的な利他主義は、自己満足や売名のためではなく、本当の意味で人々の役に立つための活動であり、21世紀最高の発明のひとつといえる。この刺激的な新しいムーブメントについて学びたいなら、本書を読むしかない」。S・ピンカー(ハーバード大学教授)。「効果的な利他主義のも

### 新世代の社会貢献学 W・マックス 《効果的な利他主義》宣言! 千葉敏生訳

「効果的な利他主義は、自己満足や売名のためではなく、本当の意味で人々の役に立つための活動であり、21世紀最高の発明のひとつといえる。この刺激的な新しいムーブメントについて学びたいなら、本書を読むしかない」。S・ピンカー(ハーバード大学教授)。「効果的な利他主義のも



「効果的な利他主義は、自己満足や売名のためではなく、本当の意味で人々の役に立つための活動であり、21世紀最高の発明のひとつといえる。この刺激的な新しいムーブメントについて学びたいなら、本書を読むしかない」。S・ピンカー(ハーバード大学教授)。「効果的な利他主義のも

# 来年創立百年 唯一の証言集

エックハート・ノイマン編  
向井周太郎・相沢千加子・山下仁訳  
《パウハウスの人々 回想と告白》



パウハウス・バンドの面々

第一次大戦後の一九一九年、グロピウスによりヴァイマルに開校、デッサウへの移転の後、一九三三年にナチスにより「退廃的」として閉校された革新的な造形教育学校《パウハウス》。本書はパウハウスという共同体を体験した五十四人の追想を収めた唯一のドキュメントである。創立者である建築家グロピウス、以後のデザイン教育の基礎となる「予備課程」をつ

## 全国を廻って調べたはじめての本

高橋樹一郎 《子ども文庫の100年》

子ども文庫とは、子どものための私設図書室のこと。自らも子ども文庫を開いていた石井桃子の本をきっかけに、六〇―八〇年代に女性たちの間で爆発的に広がった。自宅を開放したり、公民館の一角につくられた文庫には近所の子どもが押し寄せた。全国に子ども文庫を思い立つたら、自由を始められ、届け出る必要がないため、全貌を捉えるのは難しかった。全国各地の文庫を訪ねて調べ、子ども文庫の全体像をみせる、はじめての私設図書室の歴史をたどる。子ども文庫が誕生した背景、子どもたちが本に親しむ居場所となった。子ども文庫は思い立つたら、自由を始められ、届け出る必要がないため、全貌を捉えるのは難しかった。全国各地の文庫を訪ねて調べ、子ども文庫の全体像をみせる、はじめての私設図書室の歴史をたどる。



高橋樹一郎 子どもの文庫の100年

## 「現代の強制収容所」で生きるとは

岡真理 《ガザに地下鉄が走る日》

イスラエル建国とパレスチナ人の難民化から七〇年。完全封鎖から十年以上経つガザ地区は、「現代の強制収容所」と言われる。移動や物資の制限、日常的に撃ち込まれるミサイル、繰り返される大規模な破壊と集団殺戮。そこで行なわれていることは、難民から人間性を剥奪しようとする暴力だ。占領と戦うとは、この人間性の破壊、生きながらの死と戦うことだ。人間らしく生きること。それが暴力への根源的な抵抗となる。それを教えてくれたのが、パレスチナの人びとだった。著者がパレスチナと関わって四〇年、絶望的な状況でなお人間の生きる人びととの出会いを伝える。ガザに地下鉄が走る日まで、その日が少しでも早く訪れるように私たちがすることは何だろうか。(四六判・312頁・三三〇〇円)



岡真理 ガザに地下鉄が走る日

## 料理本を批判的に読む

三浦哲哉 《食べたくなる本》

庄内のワラサ、パリのオムレツ。マルファガの揚げも、アサリニキロのスパゲッティ。蒸したカリフラワーのピュレ。ファストフードの叙情。怪食、快食、絶倫食。エル・プリと新スペイン料理。水のごとき酒……(目次より) 美味いもの、美味しい酒には目がない気鋭の映画批評家が、料理本や料理エッセイを批判的に読む。食の素材味、調理法、さらには食文化のあり方をめぐる、驚きと発見に満ちた考察。その根底に流れるのは、「料理を作る・食べる・もてなす」ことに人生を捧げてきた人びとへのオマージュだ。「料理本批評」という、かつてないユニークな試み。「料理・食」(二月刊) (四六判272頁・予二七〇〇円)

著者既刊『アラブ、祈りとしての文学』(三〇〇〇円)

## 月刊雑誌 《みすず》 最近号より

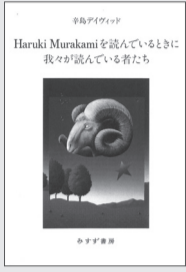
三浦哲哉「原発事故以後の食」／郷原佳以「脱構築は「文学的」テクスト読解である」／五十嵐太郎「保守化する東京の景観」／武田尚子「パジャマはいつから」／小野寺拓也「ナチ体制下の社会を照らし出す新史料?」(ほか十月号) 土屋健「機能獲得の進化史」／藤山直樹「失うことをめぐる」／生いづら「食を食べながら」／矢野久美子「アーレントを読む」／松本俊彦「生きのびるためのセガ・ラリー・チャンピオンシップ」(ほか十一月号) 五十嵐太郎「建築家の東京」(ほか十二月号) (各三〇〇円) ■「読書アンケート」特集掲載の「二月合併号」は二月一日発行。ご注文は切手四一〇円(誌代・送料込)を、みすず書房営業部「みすず」係へお送り下さい(〒113-0033文京区本郷2-20-17)。(四六判・280頁・二八〇〇円)

## 書評コラム

### 「春樹」から「ハルキ」へ

日本国内の英語学習者のために英訳された村上春樹の初期作品が、ニューヨークの編集者の目に留まっていた。そして日本での『ノルウェイの森』の大ヒット。これらを足がかりに、ニューヨークにある講談社インターナショナルでは、『羊をめぐる冒険』でアメリカに打って出るマーケティングが開始される。日本文学というアカデミックな扱いではなく、村上春樹をハルキ・ムラカミという同時代を生きた作家として英語圏に売り込むのである。ただアメリカで日本の文学作品を出版するには、いくつものハードル

### 服部文祥 辛島デイヴィッド 《Haruki Murakami を読んでいる者たち》



Haruki Murakami を読んでいる者たち

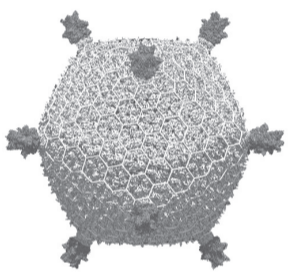
のが本書のキモである。「ねじまき鳥クロニクル」で世界的な作家として地位を得るまでは、山あり谷あり。レイモンド・カーヴァーをめぐる縁から、老舗雑誌の『ニューヨーカー』や大手出版社の名物編集者、有力

た返答を、随所にちりばめているのもファンには堪らない。関係者間の記憶に齟齬があるのは、春樹作品のパラレルワールドそのままである。エンタメ的スピード感と文学的奥深さを合わせ持

があつた。受け入れられるためには本質を生かしたまま、ま作品を再構成する大胆な翻訳、翻案、編集カットが必要だ。その光景を翻訳家や編集者の語りや生き様を通して浮き彫りにしている

エージェンツと邂逅する過程はちよつとしたドラマである。春樹がハルキになっていく裏事情は日本の読者としてなんだけか誇らしい。村上に直接インタビューして得

ち、文字表現の妙、既視感の中に潜む寂寥など、非日本的なところが村上作品の重要な魅力であれば、英語圏の読者が村上を発見していく様は必然ともいえる。だがその過程には多くの人と才能が関わっていた。カーヴァーの短編を振(も)じったタイトルにあるように、ハルキ・ムラカミを読むということは、作品を英語圏に受け入れられるように奔走した人々を「読む」ことでもある。(はつとり・ぶんしょう 作家・サバイバル登山家 読売新聞十一月十一日(日曜読書面) 書評より転載) 『Haruki Murakami を読んでいる者たち』(前面下に広告を掲載しています)



高温の酸性温泉から見つかったアーキアウイルス(本書で紹介)

## 驚くべき生態

山内一也

《ウイルスの意味論 生命の定義を超えた存在》

ウイルスとは何者なのか。一言でいうなら、それは発見から一〇〇年たってもなお常識をくつがえし続けているものたちである。たとえばあるウイルスは、宿主を献身的に育て上げる。幼い宿主の食料を確保し、宿主が寄生する生物を抑え込みに、そしてその子孫へと受け継がれていく。また、宿主に新たな能力を与えるものもある。実際に、光合成能力を獲得した「動物」や、気温五〇

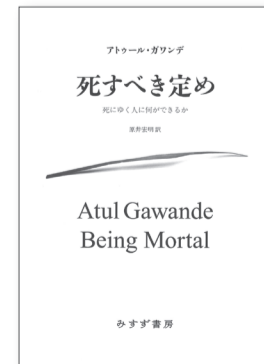
℃の環境で生き延びる耐熱植物が存在するのだ。ウイルスとは、宿主と敵対する病原体ではなかったか。また、あるウイルスは「体」がばらばらになっても復活する。3万年も凍りついていたウイルスが、増殖しはじめた例もある。ウイルスの生態を眺めていると、単なる物質のようにも、不死身の生物のようにも見えてくる。その驚くべき生態を知れば知るほど、共生と敵対、生と死の、生物と無生物の境界が曖昧になっていく。近年のウイルス学が明らかにした新たなウイルス像が豊富に紹介され、読むほどに生物学の根幹にかかわる間に導かれていく一冊。 『生物学・進化・疫学』(四六判・280頁・二八〇〇円)

## 医師の手になる医療ノンフィクション 生を見つめるまなざし

アトゥール・ガワンデ 原井宏明訳

### 死すべき定め

死にゆく人に何が出来るか 2800円



外科医としていくつもの最期の決断に立ち会い、父を看取る家族として決断に迫られる。医療にできること、できないこととは。豊かな終末期とは何かを問う。「人生最高の一冊であったと断言しよう」仲野徹(大阪大学大学院教授)「校正しながら泣いた」原井宏明(訳者)佐久間文子・中村和恵・森岡正博・酒井順子ほか各氏書評。好評15刷。

◆「ニューヨーカー」誌ライター、Amazonの新ヘルスケア企業のCEOに就任し、いま注目のガワンデの本

原井宏明訳

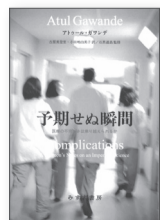
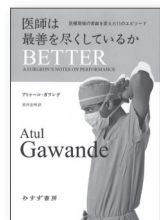
### 医師は最善を尽くしているか

医療現場の常識を変えた11のエピソード 3200円

古屋美登里・小田嶋由美子訳 石黒達昌監修

### 予期せぬ瞬間

医療の不完全さは乗り越えられるか 2800円



## 小堀鷗一郎 死を生きた人びと

訪問診療医と355人の患者 2400円

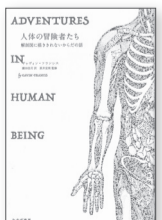
355人の看取りに関わった訪問診療医が語る、さまざまな臨終の記録。8割が病院で死亡する現代の日本で、著者の患者は7割が在宅死を選んでいる。池内紀・岸本葉子ほか各氏書評。好評10刷。著者を追ったNHKドキュメンタリー「在宅死「死に際の医療」200日の記録」日本医学ジャーナリスト協会賞。

ギャヴィン・フランシス 鎌田衍月訳 原井宏明監修

### 人体の冒険者たち

解剖図に描ききれないからだの話 3200円

著者はスコットランドの家庭医。小説のようなケースヒストリーに古今東西の人体をめぐる逸話を交えた、「読む人体図鑑」とも呼べる医療エッセイ。各紙誌書評。好評3刷。



精神鑑定書を同時代史の一資料として残すことは精神鑑定医の使命である――

『日本の精神鑑定』(みすず書房、一九七三年)と『現代の精神鑑定』(福島章編著、金子書房、一九九九年)を併せ、それぞれ第一部・第二部とし、新たに編集を加え、一書とした新版をここに刊行する。昭和から平成初期までに起きた事件の実際の精神鑑定書および、担当した精神科医を中心に書かれた解説二五組。時代と人間をあぶり出す、唯一無二のドキュメントである。裁判所はじめ法曹界、精神医学関係、報道関係、警察病院ほか関係機関、さらに図書館・学校必備。

### 重要事件25の鑑定書と解説 1936-1994

内村祐之・吉益脩夫監修  
福島章・中田修・小木貞孝編集  
《日本の精神鑑定 増補新版》

定事件/電気局長刺殺事件/若妻刺殺事件/聾啞者の大量殺人事件/大川周明の精神鑑定/俳優仁左衛門殺し事件/小平事件/帝銀事件/金閣放火事件/メッカ殺人事件/「間接自殺」としての強盗未遂事件/杉並の「通り魔」事件/ライシャワー大使刺殺事件/愛妻焼殺事件/横須賀線爆破事件/あとかき 第二部 まえがき/「連続射殺魔」少年事件/妻五人殺人事件/「ピアノ殺人事件/日航機ハイジャック事件/新宿西口バス放火事件/深川の通り魔事件/悪魔祇いバラバラ殺人事件/47、XY男性による反復殺人事件/女子中学生殺害事件/精神医学・司法・警察・報道」【十二月下旬刊】(A5判1264頁・一八〇〇〇円)

### 精神分析と女性論

J・ベンジャミン 《他者の影 ジェンダーの影》 北村婦美訳

戦争はなぜ終わらないのか

フロイトのエディプス・コンプレックス論にも見られるとおり、草創期の精神分析では、男性を主体(Ⅱ能動)とし、女性を客体(Ⅰ受動)とする構図で理論が積み上げられた。しかし、時代とともに女性をとりまく環境と女性のあり方が変化し、フロイトの女性論は今日まで多くの対立を生んできた。



それに向けられたフェミニズム思想の批判的言説を再検討し、対立を乗り越える共通の基盤を切り開く。精神分析における「ジェンダーの戦争」の終結への序章となる重要書。『精神分析・ジェンダー論』(四六判・272頁・四五〇〇円)

### 古典的大著、全2巻完結

ジュール・スーリー 《中枢神経系 構造と機能 理論と学説の批判的歴史 中世・近代篇》 萬年甫・新谷昌宏訳

いつから人間は「脳」や「神経」に注目し、自分の思考や行動を支配するものが「脳」に座を占め、「神経」がその働きを伝えると考えるようになったのか。この課題に挑み、古代から十九世紀末までの膨大な学説を纏めた古典的大著を公刊。医学史・科学史・哲学史研究者の座右に置くべき、フランスの碩学が遺した伝説の書である。本巻は、十一世紀コンスタンティヌス・アフリカヌスからデカルト、



「クリミアのランブを持った天使」として名を馳せたナイチンゲール。一万六千人の兵士の死の責任を追及する王立委員会閉会直後、彼女は謎の虚脱状態に陥り、看護の現場にも背を向けた。彼女を押し潰した思わざる過誤とは。失敗を個人のものとせず法則化して公衆と後世の人々と共有するために選んだ道とは。新たに公開された書簡や議会記録から、初版で謎に終わっていたところに納得のゆく結論を得た改訂版より、結部の加筆を生かした待望の新版。『看護・公衆衛生・英国史』(四六判・328頁・三六〇〇円)



### 「戦争と平和についての考察」など29編

中井久夫集9 《日本社会における最相葉月解説 外傷性ストレス 2005-2007》

「戦争と平和」というが、両者は決して対称的概念ではない。圧巻の長編は決して進行してゆく「過渡」であり、平和はゆるぎを持つ「状態」である。一般に「過程」は理解しやすく、ヴィヴィッドな、あるいは論理的な語りになる。これに対して「状態」は多面的で、名づけがたく、語りにくく、つかぬ。『「神話」を揺さぶる、新たな結論 ヒューズモール』(四六判360頁・予三六〇〇円)

### 「神話」を揺さぶる、新たな結論

ヒューズモール 田中京子訳 川島みどり解説

《ナイチンゲール 神話と真実 新版》

受賞図書のお知らせ ジェームズ・フランクリン 『蓋然性』の探求 南條郁子訳が、日本翻訳家協会の主宰する第55回日本翻訳文化賞を受賞しました。(六三〇〇円)



語への翻訳に対して贈られる第3回須賀敦子翻訳賞を受賞しました。(四〇〇〇円) 図書目録 2019 出来 毎年この時期に作成する小社の総合図書目録ができあがり、本年十一月までに刊行した最新刊、ロングセラー、著作集やシリーズ、オンデマンド版、最近の復刊、電子書籍、在庫僅少本まで、ただいま出庫可能な千点余をジャンル別にご紹介。本紙添付のハガキでのご請求ください。 ■みすず美術カレンダー2019のご注文はお早めに 特集「ムックの光彩」です。一部六二〇円と送料手数料の計七〇〇円を切手に、みすず書房営業部カレンダー係(〒113-0033 文京区本郷2-20-7)まで。

### みすず書房 営業部だより

年に一度、出版社が共同で品切書を復刊する事業「書物復権・共同復刊」が来年も行われます。各社の復刊候補が出揃ったリクエスト用リーフレットが年内に出来上がり、すので、年明け以降、全国の主要書店にてお手にしていただけたら幸いです。お近くに書店が無い場合は、弊社営業部までご請求ください。

### 新装復刊

#### 12月 われわれ自身のなかのヒトラー

ピカート 『沈黙の世界』の著者が、第2次大戦の直後に出版。ヒトラーを支持した人間像。佐野利勝訳 ¥3400

#### イスラム報道 [増補版]

ニュースはいかにつくられるか サイド あご髭のムスリム=テロリストという表象。新たなメディア論の古典。浅井・佐藤・岡訳 ¥4000

#### 戦中と戦後の間 1936-1957

丸山真男 「政治学における国家の概念」から「ノーマンを悼む」まで全61篇。思想史家からの応答。¥6000

#### 科学革命における本質的緊張

クーン 「パラダイム」概念を提唱した著者による科学史・科学哲学論集、全14篇。安孫子・佐野訳 ¥6300

#### 2月 ベトナムの泥沼から

ハルバースタム ビューリッツァ受賞作、ジャーナリズムの古典。新解説(藤本博)を付す。泉・林訳 ¥4200

#### みすず書房 近刊のお知らせ

2-4月の刊行予定から

- 敗北者たち――第一次世界大戦はなぜ終結し損ねたのか R.ゲルヴァルト 小原淳訳
  - ケースで学ぶ 自閉症スペクトラム障害と性アイダンス 田宮聡
  - 海を撃つ――福島・広島・ペラルーシにて安東量子
  - シュテットル――ポーランド・ユダヤ人の世界 E.ホフマン 小原雅俊訳
  - ショパンの詩学――ピアノ曲《バラード》という詩の誕生 松尾梨沙
  - 大人から見た子ども M.メルロ=ポンティ 滝浦・木田・鯨岡訳
  - これからの微生物学――マイクロバイオータからCRISPRへ P.コサル 矢倉英隆訳
  - 超現実主義の1937年――福沢一郎『シュールレアリスム』を読みなおす 伊藤佳之他
  - ヴィータ J.ピエウ 桑島薫他訳
- (www.mszc.jp/book/new/にもご案内)

#### みすず書房・最近の重版より

- スピノザ エチカ抄 佐藤一郎編訳 ¥3400
- 死を生きた人びと――訪問診療医と355人の患者 小堀嶋一郎 ¥2400
- 精神病者の魂への道 G.シュヴィング 小川・船渡川訳 ¥2600
- 子どもたちの階級闘争 プレイディみかこ ¥2400
- 戦争文化と愛国心――非戦を考える 海老坂武 ¥3800
- 農家が消える――自然資源経済論からの提言 寺西俊一・石田信隆・山下英俊編著 ¥3500
- 善意で貧困はなくなるのか?――貧乏人の行動経済学 D.カーラン/J.アペル 清川訳 澤田解説 ¥3000
- 生存する意識――植物状態の患者と対話する A.オーウェン 柴田裕之訳 ¥2800
- 人体の冒険者たち G.フランシス 鎌田昉月訳 原井宏明監修 ¥3200
- 写真講義 L.ギッリ 萱野有美訳 ¥5500